

## もくじ

児童生徒の将来を見据え、今 栄養教諭が行うべき食に関する指導とは ..... 1～7  
韓国の学校給食視察レポート ー制度・運営編ー ..... 8

## 児童生徒の将来を見据え、 今 栄養教諭が行うべき食に関する指導とは



調理スキルの習得



栄養教諭の授業風景



「自分のお弁当を考えよう」

### 出席者

文部科学省 スポーツ・青少年局	食育調査官	濱田 有希
高知県南国市立十市小学校	栄養教諭	石川 利恵
北海道札幌市立発寒小学校	栄養教諭	原 ゆみ
大阪府堺市立浜寺東小学校	栄養教諭	福島 葉子
福井県越前町立朝日中学校	栄養教諭	藤田 法子

### コーディネーター

淑徳大学 看護栄養学部 客員教授  
公益財団法人学校給食研究改善協会 理事  
前 文部科学省学校給食調査官

田中 延子

(すべて敬称略・五十音順)

栄養教諭制度がスタートし、約9年が経過しました。栄養教諭の配置については、都道府県によって差があり、配置数は半数に至っていません。そこで本号では、制度創設当初から栄養教諭として活躍されている方々に、配置に関する様々な課題や、栄養教諭として指導を展開する中で得られたやり甲斐や成果、職務の魅力、さらに児童生徒を健全に育てていくために「欠かせない食に関する指導とは何か?」について話し合っていました。

また、本年度より実施の「海外視察」事業では、我が国と同様に栄養教師を配置し、高校でも学校給食が実施されている韓国の学校給食を視察しました。本号と次号の2回に分けてレポートしていきます。

## 1. 栄養教諭の任用状況と実態

### 【田中理事（以下 田中）】



平成 17 年度に栄養教諭制度がスタートして今年で 9 年となりました。本日は、文部科学省食育調査官及び制度発足時にいち早く栄養教諭を配置した北海道、高知県、大阪府、福井県の栄養教諭の方々にお集まりいただき、栄養教諭と学校栄養職員との違いやこれからの食育のあり方などについてお話を伺いたいと思います。最初に、栄養教諭の配置についての現状認識について濱田調査官にお伺いしたいと思います。

### 【濱田食育調査官（以下 濱田）】



**栄養教諭配置に関する現状認識**  
・全国平均の配置率は約 38% であるが、都道府県により差がある  
・栄養教諭の採用試験受験に躊躇する学校栄養職員もあり、栄養教諭という職業の魅力

を伝えていく必要がある

・栄養教諭配置促進に向け、実態を踏まえた都道府県等への指導が必要である

食育を推進していくためには、栄養教諭の配置を促進していくことが必須であると考えています。全国の栄養教諭配置数は 4,698 人（平成 25 年度国公立学校）、全栄養教諭・学校栄養職員に占める割合は、38% 程度です。しかし、都道府県によって配置率の差が大きく、ほとんど栄養教諭になっている都道府県もあれば、まだ 10% 未満の所もあります。栄養教諭の配置については、設置者の判断に委ねられていることから、国としては、配置の進まない自治体はどのような実態なのか直接訪問し、聞き取りを行い、現状に即した配置促進のための指導を行っているところです。

配置が進まない原因としては、栄養教諭の配置に積極的でない自治体がある一方、行政が門戸を開いても受験しない学校栄養職員もいると聞いています。広域異動や家庭の事情等もあると思いますが、栄養教諭の重要性や職業としての魅力を学校栄養職員に伝えていく必要もあると感じています。

食育基本法や学習指導要領にも学校における食育の推進が明記されており、それを中核的に担っていくのは栄養教諭です。児童生徒を健全に育てていくためにも栄養教諭の役割やその必要性をしっかりと伝えながら配置促進に取り組んでいきたいと思っています。

【田中】ご出席いただいた皆さんの道府県は、平成 17 年にいち早く栄養教諭制度を取り入れています。福井県、高知県では、その後、配置が伸び悩んでいます。なぜそのような状況になっているのかお話しください。

### 【藤田栄養教諭（以下 藤田）】

#### 福井県の現状

- ・制度発足当初から栄養教諭を配置したが、配置率が全国平均を下回っている
- ・食育推進には、栄養教諭の配置拡大が必要
- ・学校栄養職員からの任用替えを促進していただくよう行政にも働きかけたい

福井県は現在の配置率が約 33% です。ついに全国平均の配置率（約 38%）より低くなってしまいました。どの市町にも、最低 1 名は、栄養教諭が配置され、食育を推進してきましたが、学校栄養職員の方々も非常に頑張って、食に関する指導を行っておられます。このため食育が淀みなく推進されていると行政には判断され、配置の伸び悩みにつながったのかもしれませんが。私たちとしては、食育の推進には、栄養教諭の配置拡大が必須なことから、学校栄養職員からの任用替えを積極的に進めていただくよう行政に働きかけたいと思います。

【田中】学校栄養職員が頑張れば栄養教諭と同じことができるのかということについては、後程、お話できたいと思います。高知県はいかがですか。

### 【石川栄養教諭（以下 石川）】

#### 高知県の現状

- ・経験豊富な学校栄養職員に受験していただき、給食を教材として活用した食育を推進してほしい

高知県は約 50% の配置率です。現職の学校栄養職員は、採用試験を受験していますが、自己 PR が苦手な思いを十分語れなかったのか、なかなか受からず、あきらめかけている人が確かにいると思います。平成 26 年度の採用が決まっている 4 名の中に現職の学校栄養職員はいないと聞いています。しかし、現職の学校栄養職員は、食に関する指導の経験もあり、生きた教材である献立の作成をしっかりとできる方もいますから、その経験を生かすためにも、積極的に受験していただき、一緒に食育を推進していきたいと考えています。

【田中】大阪府や北海道は順調に配置が進んでいるように見えますね。何か課題はありますか。

### 【福島栄養教諭（以下 福島）】

#### 大阪府の現状

- ・栄養教諭任用は進んできたが、定数内講師の占める割合も多く、食育を進める上での課題となっている



学校栄養職員を全員栄養教諭にするという大阪府の方針もあり、学校栄養職員はほぼ100%栄養教諭に任用替えされています。しかし、定数内講師が2割弱を占めており、栄養教諭の異動後に定数内講師が配属されることもあります。食育を推進していく上では是非とも栄養教諭の採用を増やしてほしいです。

**【田中】** 栄養教諭の後任が学校栄養職員になることさえ問題だと思いますが、まして期限付きの方では、せっかくの食育の推進体制が後退することが心配されます。北海道の状況はいかがですか。

#### **【原栄養教諭（以下 原）】**

##### **北海道の現状**

- ・共同調理場の管理をさせるために、栄養教諭採用試験を受けさせない市町村がある
- ・自信がない、不安があるという理由で採用試験を受けない人が少数いる

北海道の栄養教諭は426名、道全体の市町村費を含めた栄養教諭・学校栄養職員に占める配置率は74%、配置人数は全国一です。しかし、栄養教諭になると、学校に行ってしまう給食センターの管理が疎かになるからと受験させない市町村が一部あります。北海道の新規採用は栄養教諭のみのため、そのような市町村の欠員補充は期限付きの学校栄養職員になります。十分な研修を受講していないので、給食管理面でも問題があります。また、中には、給食管理だけで精一杯で、栄養教諭の職務の大きな柱である「食に関する指導」について自信がない、不安があるという理由で採用試験を受けない方が少数いらっしゃいます。

**【田中】** 市町村の理解を求めていく必要がありますね。さて、皆さんは早くに栄養教諭として任用され、パイオニア的な存在でしたが、学校栄養職員の時と比較して、どのような違いを感じましたか。

##### **2. 栄養教諭になったことによる変化、やりがい、喜び等**

- ・教員と同じ目線で児童生徒の教育に携わることができる
- ・食育の専門家として学校全体を動かすことが可能になった
- ・教育者としてスキルアップが図られた
- ・児童生徒の変容を目の当たりにでき、やりがいを感じている

#### **【石川】**



- ・行政、学校が食育の推進方針を打ち出し、その担い手として栄養教諭を前面に出してくれた
- ・学校栄養職員の時はずの下の力持ちだったが、栄養教諭は教員と同じ土俵で児童生徒の教育に力を発揮できる

我々高知県の栄養教諭第一期生5名には、制度の1年目ということで、「失敗は許されない」というプレッシャーがありました。視察を受け入れたり、原稿依頼がきたり、問い合わせがあった時にも我々5名は「絶対にNOとは言わない」を申し合わせて、結束して何でもやってきました。このような仲間がいたことや、本市行政が知育・徳育・体育・食育を4つの柱とし、食育は学校給食を中心に進めるという方針を出してくれたこと、それを校長が学校経営に位置づけ、栄養教諭の居場所を作ってくれたことが、栄養教諭としての職務を遂行する上で大きかったと思います。

学校栄養職員の時はず、縁の下の力持ちでしたが、栄養教諭になってからは、他の教員と同じ土俵に立って、共に手を携えて児童生徒の教育を行っていることを実感しています。その中で児童が変容していく姿を目の当たりにして、愛おしいと感じると同時に、栄養教諭の仕事にやりがいを感じています。

#### **【福島】**



- ・行政が校長研修に食育を取り入れたことで、校長の理解が深まり、バックアップが得られた
- ・教員と共に授業研究を重ね、教育者としてスキルアップした
- ・発言が重く受け止められるようになり、教員研修の講師等を依頼されるようになった

大阪府は、食育を根付かせるために、平成17年からモデル校に栄養教諭を配置し、本市の教委においても校長研修に食育を取り入れたので、校長のバックアップが得られ、それがとても大きかったと考えています。

私は、学校栄養職員として勤務していた学校に平成20年4月から「新任栄養教諭」として配属されました。その時に、校長先生から「今までは学校栄養職員でしたが、新たに栄養教諭として勤務していただきます」と明言していただいたことがありがたかったです。栄養教諭になった当初は、学校栄養職員の時と職務の内容は大きく変わらなかったのですが、他の教員と共に授業研究し、児童を指導するなど、教育者として評価していただき、私の発言も重く受け止めてもらえるようになりました。自分自身、授業の組み立て方や効果的な授業について学び、かなりレベルアップしたと思います。今では、学校栄養職員時代の授業がとても恥ずかしいです。

また、給食・食育の研修にとどまらず、若い先生方のステップアップ研修の講師を依頼されるなど、学校栄養職員の時との違いに驚いています。

## 【藤田】



- ・児童生徒の個別の情報を教員たちと共有し、連携して指導ができるようになった
- ・教員たちのサポートがあり、教員の目線に立った指導の仕方が分かるようになった

・食の専門家である栄養教諭として必要とされていることを実感できる

私は、平成17年に栄養教諭になったのですが、食育に熱意をもっている校長の食育推進校に配置され、食農教育を中心に食育を推進してきました。校長は、栄養教諭は地域と学校、学校と保護者をつなぐ役割だからと、栄養教諭としての立場を作ってくださいましたので、JA等の地域団体から講演依頼もきて、栄養教諭ならではの活動が広がっていきました。児童生徒の生活指導についても他の先生方と同様に、個別指導を必要とする児童の情報も共有し、養護教諭とも連携して指導しています。

集団指導や給食の時間でも児童生徒に効果的な働きかけをするにはどうすればいいかということが、職員室で交わす日常の会話や、授業について他の先生からアドバイスをいただくなど、さりげない教員たちのサポートで分かるようになりました。職員会議での発言の場が広がり、指導教材についての相談を受けたり、「授業でこの部分を受け持ってほしい」と、食の専門家として必要とされ、指導にかかわることがとても楽しいと感じています。

## 【原】



- ・「献立をたてる人」という枠が外され、教員に提案が受け入れられるようになった
- ・学校栄養職員の時に、いくら努力しても受け入れられなかったことが、栄養教諭になったこと

で、学校全体を動かすことができるようになった  
・カリキュラムに食育を位置づけて指導したことにより、児童の変容が見られるようになった

栄養教諭になって、最も大きな変化は、食育が教育課程に位置づけられるようになったことです。学校栄養職員の時には、やってもやっても学校全体が動かず、なぜだろうとずいぶん悩みました。今思うと、「献立をたてる人」という見えない「枠」があって、それを越えられなかったのですが、栄養教諭になったことで「枠」が外され、私の提案した指導内容が、教科、学級活動、さらに総合的な学習に結び付けられて、横断的にカリキュラムが組まれて

いくようになりまし。結果を見ながら翌年は計画を練り直して実施するということを繰り返していくうちに、児童が変わっていく姿を見ることができるようになりました。カリキュラムに入れて継続的に指導することが大切であることを学校全体で認識しました。これは栄養教諭にならなければできなかったことだと思います。

【田中】栄養教諭制度の主な目的は、「教諭」として他の教員と連携して児童生徒を継続的に指導していくことです。皆さんのお話では、学校栄養職員の時には、努力してもできなかったことが、栄養教諭になったことで、学校全体が動き、教員、児童生徒そして自身も大きく変わったということです。しかし、忙しいし、大変な職務ですので、栄養教諭になったことを後悔したり、学校栄養職員に戻りたいと思ったことはありませんか。

【全員】ないです！！

【田中】今まで同じ質問をしても戻りたいと答えた人は一人もいませんでした。栄養教諭としてやりがいを感じながら、職責を果たされているということですが、濱田調査官はどのように感じられましたか。

## 【濱田】

- ・栄養教諭は児童生徒の変容を実感できる夢のある魅力的な職業である
- ・栄養教諭は学校を核としながら、家庭、地域を動かすためのコミュニケーション力を身につけることが大切である

皆さんのお話を伺うと、栄養教諭は児童生徒においしい給食を提供して喜ばれ、直に接して、変容が実感できるという、夢があって魅力的な職業だと改めて感じました。これから栄養教諭を目指す人たちの励みにもなりますね。また、安全・安心な学校給食の提供という責任ある仕事を担っている食の専門家ですから一人で抱えこまず、教職員と連携し、保護者や地域の方々を巻き込みながら食育を推進する手法を身につけるなど、コーディネーターとしての役割を果たしていただきたいと思います。

【田中】皆さん、児童生徒が確実に変わったとおっしゃっていましたが、どのような変化が見られたのでしょうか。

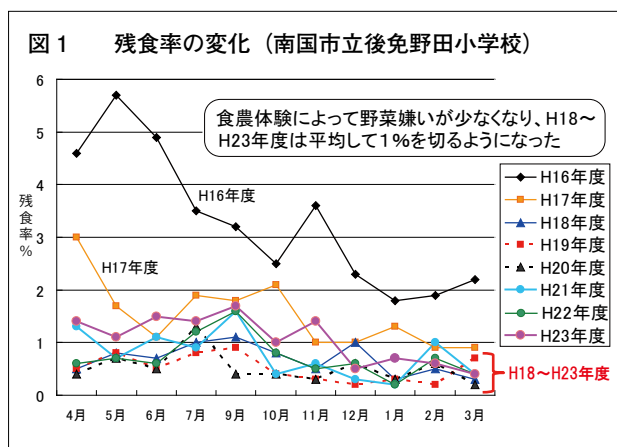
## 3. 栄養教諭が中核となって食育を進めたことによって児童生徒や教員はどのように変化したのか

- ・野菜嫌いや偏食が改善され、残食が減った
- ・料理に関心を持つようになった
- ・自主性、責任感、思いやりなど精神面での変化が見られた
- ・学校全体が落ち着いた
- ・教員が食育の楽しさを認識した
- ・教員が給食時間の指導の重要性を認識した

## 【石川】

### ・農業体験を通じた食育（食農教育）を行ったことで、深刻な野菜嫌いが改善され、残食が激減した

前任校では、農業体験を中心に、食に対する関心を高めていくという食農教育を実践していました。実施前は学校給食の残食率が10%を超えており、野菜が全く食べられない、人参しか受け付けないといった深刻な野菜嫌いが目立ちました。自ら野菜を栽培・収穫し、調理して食べるという体験を毎年積み重ねていくうちに、野菜を食べられるようになった児童が増えました。その結果、残食率が平均して1%を切るようになったことが一番の成果だったと思います（図1）。



## 【原】

- ・知識と調理体験を一体化し、継続して指導することで残食が減った
- ・児童に我慢強さ、自主性、責任感、他者に対する思いやりが育まれるなど精神面での成長が報告された
- ・家庭においても料理に関心をもつようになり、野菜嫌いなどの偏食が改善された

当時、札幌市はフードリサイクルという取組をしていました。給食の残菜をたい肥に変えて畑に入れ、野菜を作付けして調理に活かして食べるというものです。そのモデル校に指定されたのをきっかけに、私は、知識を深めることと調理体験や加工体験をさせることを一体化した取組を先生方に提案して、カリキュラムの中に入れていただきました。こうして食に向き合わせる取組を続けた結果、最終的に残食が減り、平成23年度は、サラダや野菜料理がほとんど食缶に残らないという状態になりました。保護者アンケートで家庭での変化を聞いたところ、料理に関心をもつようになった、野菜嫌いや偏食が改善されたという回答が増えました。特に嬉しかったのは、我慢強さ、自主性、責任感、他者に対する思いやりといった、精神面での変化が挙げられたことです。担任の先生も同

様に評価されていました。

【田中】「残食の減少」は、一つの現象のように見えますが、その過程が重要です。栄養バランス、健康、感謝の気持ちなど知識・理解・実践の結果が、残食率の変化として現れるのだと思います。

【原】取組を始める前の児童の実態は、給食の食べ残しが目立ち、特に野菜嫌いがとても多く、朝食についても9割が食べてきているものの、主食とおかずを食べてきた割合は6割にとどまっており、問題のある状況でした。モデル校に指定された時、先生の間で戸惑う声もあったのですが、ある先生が「体験的な活動で子どもたちの食に向き合う姿勢が変わるのではないだろうか」とおっしゃって、話し合いを続け、教職員が共通認識をもつことができました。このことが「食を切り口としてカリキュラムを組んでいこう」というきっかけになり、成果につながったと考えています。

【田中】日頃から、児童生徒の食の現状を教職員や保護者に発信し、危機感を共有しておくことが重要ですね。

## 【藤田】

- ・食農教育に積極的にかかわる教員の姿を見て、児童が変わった
- ・落ち着いた時間を設け、感謝の気持ちなどに向き合わせることで、学校全体が落ち着いた
- ・給食の時間が大事な指導時間であることを教員が認識し、給食時間の指導が充実した

初めて栄養教諭として勤めた学校は、食育推進校として食農教育を行ったのですが、畑は広大で、本当に大変でした。しかし、先生たちが「なんて大変なんだろう、でも、食育ってなんて楽しいだろう」と夢中になっていきました。給食で先生が「この野菜おいしいよね」と言う児童から「ちょうだい、ちょうだい」と手が挙がり、野菜を食べる量が半端ではありませんでした。その後、異動した学校では、トラブルやけがの発生が問題になった時期があったので、教員で話し合った結果、児童を落ち着かせるため、掃除時間に「黙想タイム」という学校全体がシーンとする時間を設けました。そこで、給食の時間にも「いただきます」の前に給食の約束を唱和する取組を提案し、実践することになりました（図2）。こうして教員全員が根気よく取組を続けた結果、学校全体が落ち着いたように思います。先生方も、給食の時間はマナーや感謝の気持ちに向き合わせる大事な時間だと意識して、よりしっかり指導して下さるようになりました。





### 【福島】

- ・教員が一致協力して給食指導を根気強く続け、給食の雰囲気を変えたら、学校が落ち着いた

私が赴任するまで、現任校は栄養教諭・学校栄養職員の配置校ではありませんでした。学校全体に落ち着きがなく、給食の時間にも教室から飛び出して来る児童がいました。まず給食の時間を落ち着かせることが大事だと考え、授業や給食指導の様子を見て回り、児童を直接指導し、生活習慣についてアンケートをして課題を確認しました。夏休みには、教員研修会で給食指導の留意点について話し合い、共通認識をもつことができました。例えば、食べ物大切に扱うという意味で、単純なことなのですが「食缶のふたやかごなどを絶対に床に置かないようにしましょう」と徹底しました。2年目になると、児童から「給食おいしかったよ」という声が出るようになり、給食の残食もとても少なくなって、ここが本当に同じ学校なのかと見違えるくらい落ち着きました。

**【田中】**このような変化をお聞きになって、濱田調査官はどのように感じられましたか。

**【濱田】**給食の時間は、児童生徒の指導の場でもあります。給食の時間が落ち着いてくると、学校生活も落ち着いていくのでしょう。教育の一環として位置づけられた給食の時間は、児童生徒が共同作業を行う実践の場です。給食指導では、栄養教諭が担任の先生方に対し、指導の仕方をきちんと伝えることで、校内で統一した指導が可能となります。また、授業で学習したことを振り返ることができるなど、とても貴重な時間であることを認識していただく必要があります。

**【田中】**栄養教諭として配置された当初は、全体計画や年間指導計画を作ったり、指導時間を確保したり、網羅的な指導を行うなど、かなり忙しい思いをされたと思います。しかし、経験を重ねる中で、児童生徒の将来の幸せのために、指導内容を精選していかなくてはならないということに気づかれたことと思います。皆さんにとって、児童生徒の将来の幸せの

ために「欠かせない指導」とは何かということについてお聞かせください。

## 4. 児童生徒の将来の幸せのために欠かせない指導とは何か

- ・調理する力を身につけさせる
- ・適量を学ばせる
- ・朝食指導を通して、生活リズムの改善につなげる
- ・体を動かす(運動する)ことの必要性を学ばせる
- ・ハイリスク者に対する個別指導を行う

### 【石川】

- ・バランスよく食べることを指導する
- ・自分自身の適量を学ばせる
- ・発達段階に応じた食事づくりを指導する

「バランスよく食べる」「何をどう組み合わせるのか」という指導が大切だと思い、発達段階に応じた指導を継続して行ってきました。毎日の給食指導を行いながら、年1回であっても1年生から6年生まで繰り返し指導を行うことが大事だと思っています。また、自分自身の適量を学ばせるために、身長・体重から、適切な容量の弁当箱を選択し、弁当作りをするという指導を行っています。朝食については、家庭の状況によって何も食べてくることができない児童に対し、発達段階に応じ、自分で用意して食べることができる指導が大切だと考えています。学習した内容を少しでも頭の隅に留め、将来家庭をもった時に食環境にも目を向け家族で食卓を囲む、そんな温かい幸せな家庭を築いてほしいと願っています。

### 【原】

- ・調理のスキルを身につけさせる
- ・知識に体験をプラスさせ、一体的に指導する

本校では、1年生から子ども用の包丁を使って調理体験をさせています。調理のスキルは、自らの命を守り育む、生きる力の基礎です。調理を通して、仲間同士との認め合い、助け合いの精神も育まれます。さらに知識と食農体験や調理体験が一連の学習となることで、食べ物の命を自らの命につなげる本当の意味での食の理解が得られることを実感しています。知識だけでも弱いし、体験だけが独り歩きしても成果は望めません。教科、学級指導を総合的な学習へと仕組みながら教育活動を横断するカリキュラムを組むことが大切だと思っています。

### 【藤田】

- ・体験を通して、食べることは楽しいと実感できる指導
- ・朝食を含む望ましい生活習慣の定着に向けた指導
- ・地域のすばらしさを理解させ、郷土愛を育てる指導

一つ目は体験活動を取り入れることです。学校農園を活用した栽培学習に始まり、調理実習に発展させる一連の体験を通して、命の大切さや感謝の心が生まれ、何より食べることは楽しいと実感できるようになります。二つ目は、朝食の大切さについての指導です。知識だけでなく、小学校低学年でも実践できる内容で、どんな食品をどのくらい食べたらよいか分かる力をつける指導が大切と考えています。保護者が朝食を用意できない時は、加熱機器や包丁が使えなくても自分で用意できるように、「冷蔵庫にあるものでこんな朝食が作れるよ」と教えたり、食材がなければ「お家の人に『これだけは用意しておいてね』と頼んだり、一緒に買い物に行って買って来よう」という指導をします。三つ目は、地場野菜を活用し、地域と共に進める食育です。福井型食生活（日本型食生活）から健康的な食べ方を理解させたり、自然の恩恵による旬の食材に関心を高めたりします。たとえ将来、県外や海外で生活することになっても、ふるさとの食体験は人生を豊かにし国際理解につながると考えます。毎日の積み重ねである、給食の時間の指導を一番大切にしなければならないと考えています。

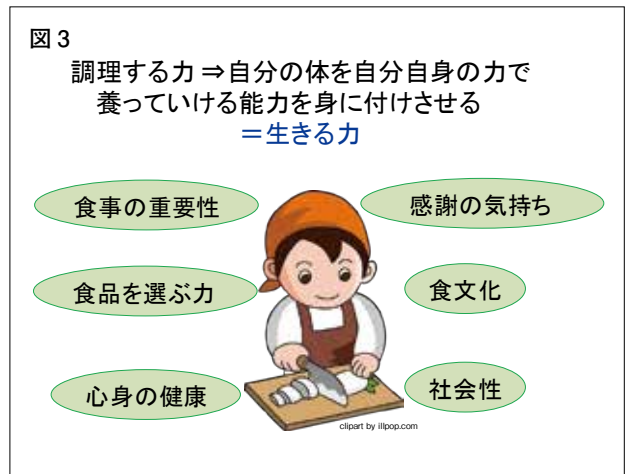
**【福島】**

- ・実態を踏まえて、生活習慣の改善につなげる指導
- ・栄養バランスや食べる量を考えて食品を選択する力を身につける指導

本校では継続的な生活習慣アンケートをとって、把握した課題を共有していますが、「毎日排便しない」「朝食でおかずを食べていない」という児童が多い状況です。まずは、自分の体について考えさせ、朝食での野菜や果物の取り入れ方を知らせることによって食習慣の改善につなげる指導を進めています。また、家庭での食の経験の乏しさから、野菜嫌いや和食嫌いの児童もいます。給食の時間の指導で、食材や献立に関心をもち、しっかり食べることを意識づけます。それを授業で発展させて、何を（栄養バランス）どれだけ（自分の適量）食べたらよいかを考えると共に、食品を選ぶ力を身につけるような指導が欠かせないと思っています。

**【田中】** 児童生徒の将来のために欠かせない指導についてお話いただきました。調理する力は、直接生きる力につながり、さらに、食に関する指導の6つの目標（図3 食事の重要性、心身の健康、食品を選択する能力、感謝の心、社会性、食文化）がついてきます。適量を学ばせることは、しっかりした身体作りのために欠かせませんし、日々の学校給食を通して指導できます。朝食指導は、栄養バランスのみならず、朝ごはんを食べるためには早く寝て、早く起きなくてはなりませんから生活リズムの改善につなげ

ることができます。加えて運動です。さらに、肥満や痩身などのハイリスク者に対しての個別指導を行っていく必要があります。



最後に濱田調査官から、児童生徒の将来のため、栄養教諭たちに望むことについてお話いただきたいと思います。

**【濱田】**

**5. 児童生徒に生きる力を身につけさせるために、栄養教諭等に望むこと**

- ・児童生徒につけさせたい力は何かを明確にし、優先順位をつけて指導すると共に、複数の効果が得られる指導を目指す
- ・意図することを周囲に発信すると共に、実践したことを数値化して評価できる力を身につける

指導の効果を高めるためには、優先順位をつけ、ポイントをはっきりさせて、複合的な効果の上がることを意識していくことが大切です。児童生徒が自らの健康に関心をもち、健全な食生活を営むことができる「自立」を目指すためには、発達段階に応じた一貫性のある指導が必要であり、その成果を分かりやすく「見える化」して周囲に発信していく必要があります。また『食に関する指導の手引』等にも記載があり、繰り返し言い続けていますが、栄養教諭には実践したことを数値化して評価し、検証する力を身につけてほしいです。そのためには、学校・家庭はもちろんのこと、大学や企業、関係機関等と連携し、そこがもつ評価法や分析等のノウハウを積極的に活用するなど、より高いスキルを身につけていただき、さらに明瞭な検証データに基づく効果的な指導につなげていただければと思います。

**【田中】** 本日はありがとうございました。 (終)

# 韓国の学校給食視察レポート - 制度・運営編 -

韓国は、日本の学校給食に倣って、学校給食制度を構築してきたと言われています。給食の制度、運営方法、食育に関する実情を把握するため、ソウル市に栄養教諭3名を派遣し調査しました。

調査団：上西可南子（栄養教諭・山梨県大月市学校給食センター）、嵯峨潤子（同・岩手県久慈市学校給食センター）、松本萬寿美（同・徳島県那賀町相生学校給食センター）、当協会理事2名

**概要** 期間 2013年11月20日～22日  
訪問先 ソウル市教育庁体育健康青少年課、木雲（モウクン）初等学校、陽東（ヤンドン）初等学校、中賢（ジョンヒョン）初等学校

## 内容

### 1. 学校給食の歴史

1953年	朝鮮戦争終了後、ユニセフなどの支援を受けて救護給食を実施
1973年	韓国政府による給食開始
1981年	学校給食法制定
1998～2002年	給食対象の拡大（小学校→高等学校→中学校）
2003年	栄養教師制度創設
2006年3月	栄養教師配置開始
2010年～	無償給食の推進

### 2. 実施率

小・中学校、高等学校、特別支援学校……ほぼ100%  
2010年に小中学校において無償給食が実施され、実施率が向上した。

### 3. 学校給食の運営

・調理方式……直営、単独調理方式  
1997年委託給食を実施したが、2006年に大規模な食中毒が発生し、原則直営とした（学校にスペースが無い場合は、運搬給食も一部認めている）。直営の比率2006年61.1%→2012年97.8%

### 4. 経費

経費の区分	負担の主体
食材費(小・中学校は無償給食)	道(都道府県)市
運営費	設置者
施設・設備費	設置者

学校給食法及び施行令より

### 5. 栄養教師制度の導入

- ・2006年、栄養教師配置開始。小中学校に栄養教師を置く。2012年は国公立合わせ4,470名の栄養教師が配置されている。
- ・栄養教師は、栄養士の欠員が生じた場合に国費で配置されるため、欠員数と国の予算との兼ね合いで配置数が決まるが、近年、伸び悩んでいる。
- ・栄養教師の主な職務は給食管理と食に関する指導であり、年間30時間程度(学校によって異なる)の直接指導(体育及び実科(家庭科のような教科))で行われている。
- ・栄養教師及び栄養士の配置基準は、児童生徒50人以上の学校に1名配置である。

### 6. 給食の内容(ソウル市)

- ・授業日の昼食に、主食、汁物、おかず、キムチの給食(牛乳は1時間目の終了後に飲用)。  
※キムチは食文化の継承のため原則、毎回、提供される。

当日のメニュー

- ・赤いごはん・大根とかぼちゃのチゲ(みそ汁)・豆腐とエビの天ぷら(ケチャップ)・チンゲン菜のごま油和え・キムチ・みかん



### ・給食の調理・配食



調理風景



栄養バランスは自転車の車輪に例えられている

### 考察

今回はソウル市の学校給食を調査しましたが、郡や市によっては、実態が異なることも報告されています。

日本と韓国の給食を比べて、どちらが良い給食なのかは、評価が分かれると思いますが、敢えて優劣をつけるならば、以下のように評価できると考えます。

#### ●韓国が日本よりも優れていると思われる点

- ・実施率はほぼ100%であり、しかも高等学校も学校給食の対象になっている
- ・調理方式が、ほぼ単独調理場である
- ・栄養教師等の配置基準は、児童生徒50人以上の学校に1名である
- ・食中毒の多発により、委託から直営に転換している

#### ●日本が韓国よりも優れていると思われる点

- ・食育に関しては、日本の方が教育への位置づけが明確で、取組も優れていると考えられる。
- ・衛生管理に関しては、日本の方がかなり優れていると思われる。韓国においては、床はウェットであり、天井まで消毒を行うなど過剰な消毒等が行われていた。
- ・栄養教諭の配置については、韓国の場合、国費で任用されているが、栄養士は非正規雇用が多く、2年以上勤務した場合更新しなければならない。そのため、退職者が出ない限り、栄養教師を配置できなくなっている。日本の場合はほとんどが正規雇用であり、しかも任用替えの制度があるため、配置数が4,698人と勝っている。

#### ●見解が分かれる点

- ・韓国では給食費を無料にしているため、他の教育費が圧迫され、教育関係者からは、批判が多い。
- ・献立内容(食文化が異なるので優劣はつけられない)

韓国の学校給食法は、日本と同様『奨励法』であるものの、韓国では小・中・高等学校において100%学校給食が実施されていることは、大きく評価できると思います。

日韓関係が冷え込んでいる中での韓国訪問でしたが、いずれの訪問先でも我々を歓迎してくださいました。政治はどうあれ、両国の国民同士が親交を深めることが大切であることを、お互い確認しました。

次号では、訪問したソウル市内3校の学校給食の実際についてお知らせします。

**【編集後記】** 本座談によって、学校における食育の推進のためには、栄養教諭が他の教員等と連携し、継続的な指導を行うことが大切であり、その中核になる栄養教諭としての役割と必要性が確認されました。次代を担う児童生徒の健全な育成のためには全国に配置された栄養教諭による「生きる力を身につけさせる」指導がいかに重要であるか、改めて理解されることを願って本号を発信いたします。また、韓国の学校視察では、ソウル市における現在の学校給食事情をレポートしました。次号掲載のレポート第2弾では各小学校の学校給食の様子についてお伝えする予定です。

本紙記事・写真・図表等の無断複写・複製・転載を禁じます。学校教育現場等で指導に活用される際にも、必ずご一報くださいますようお願いいたします。指導資料としてご利用の場合は追加発送させていただきますので、お知らせください。